第1学年〇組 国語科学習指導案

平成24年〇月〇日(〇)第〇校時 指導者 〇〇小学校 〇〇〇〇

1 単元名 おおきな かぶ

2 単元の目標

- (1) 「おおきなかぶ」の音読を工夫したり、自分の選んだ本のおもしろいところが伝わるように読んで聞かせたりしようとする。 (関心・意欲・態度)
- (2) 繰り返しの言葉や文章のリズムを感じながら音読することができる。

(読むこと)

(3) 場面の様子や登場人物の動きを想像しながら読むことができる。

(読むこと)

(4) 選んだ本のおもしろいところを選び、友だちに紹介することができる。

(読むこと)

3 目指す子どもを育てるために

① 単元で目指す子ども像

◎ 繰り返しの言葉や文章のリズムのおもしろさを感じたり、想像を広げて読んだりする活動を通して、読書に 親しもうとする子ども

② 単元を貫く言語活動

言語活動:わくわくおはなしかいをひらこう

- ◎ 本時で身に付けさせたい「言語活動を行う能力」
- 〇 繰り返しの言葉や文章のリズムを考えながら音読する力
- 動作化などを通して、場面の様子や登場人物の動きについて想像を広げながら読む力

③子どもの実態

- 個人差はあるが、ほとんどの子どもがひらがなを正しく読むことができる。
- 拾い読みの子も数名いるが、全体として、言葉や文のまとまりで読めるようになってきている。
- 「はなのみち」や「おむすびころりん」など、登場人物のせりふを考えて音読することで、場面の様子や登場人物の動きを想像して読む楽しさに気付きつつある。
- 読書の時間に、自分の好きな本を選んで読んでいる。しかし、じっくりお話を味わう子もいるが、本に親しもうとする情意面において、個人差が大きい。
- 一問一答形式の簡単な質問には、意欲的に発表する子が多いが、気付いたことや思ったことを自由に発表する場面になると、慣れていないためか、自信を持って伝えられない傾向がある。

単元の目標との関連で実態をとらえています。

時	学習活動		関意	話聞	書く	読む	言語	評価規準
1	(学習の見通しを持つ。) ○ 「おおきなかぶ」の全文を 音読する。	(並 行 読 書	0			0		読み聞かせに関心を持とうとしている。繰り返しの言葉や文章のリズムを感じながら音読している。
2	○ 課題①:大きな大きなかぶ ができるまでのおじいさんの 行動や気持ちを想像する。	書)				0		大きな大きなかぶができるまでの おじいさんの期待感とできた時の喜びを想像している。
3	○ 課題②:かぶが抜けない時 の登場人物(おじいさん・お ばあさん・まご・いぬ・ねこ) の行動や気持ちを想像する。					0		○ かぶが抜けない時の登場人物(おじいさん・おばあさん・まご・いぬ・ねこ)の行動や気持ちを想像している。
4 (本時)	○ 課題③:かぶが抜けた時の 登場人物(おじいさん・おば あさん・まご・いぬ・ねこ・ ねずみ)の行動や気持ちを想像 する。					0		かぶが抜けた時の登場人物(おじいさん・おばあさん・まご・いぬ・ねこ・ねずみ)の行動や気持ちを想像している。
5	繰り返しやリズム、登場人物の動きを工夫して「おおきなかぶ」音読発表会をする。	,				0		○ 繰り返しやリズム,登場人物の動きを工夫して「おおきなかぶ」の音読をしている。
6	○ 並行読書の中から、紹介したv を選ぶ。	本				0		○ 並行読書の中から、おもしろいところを考えながら紹介したい本を選んでいる。
7	○ グループで、選んだ本の読み聞せの練習やお話会の準備をする。	力・				0		○ 表現やストーリーのおもしろさが 分かるように音読の練習をしている。
8	○ 選んだ本のおもしろさが伝わる うに発表内容を工夫し、お話会を る。		0			0		読み聞かせを楽しもうとしている。選んだ本のおもしろいところが伝わるように、読み聞かせをしている。

言語活動: わくわくおはなしかいをひらこう

~指導要領「読むこと」~

言語活動例:ア 本や文章を読んだり、想像を広げたりしながら読むこと

言語活動例:オ 読んだ本について好きなところを紹介すること

第6~7時に単元を貫く言語活動を位置付け、その活動に必要な力を 第2~5時で身に付けることができるように計画しています。

5 本時の目標

○ かぶが抜けた時の登場人物(おじいさん・おばあさん・まご・いぬ・ねこ・ねずみ)の行動や気持ちを想像し、工夫して音読することができる。 (読むこと)

6 学習過程

6 学習過程								
時間	学習活動・内容	○ 教師の支援 □ 評価						
5	1 前時までを振り返る。	○ 挿絵や振り返りコーナーを活用して、大きなかぶ						
	(1) 前時までのおじいさんたちの様子を振	ができた時のおじいさんの様子やかぶがなかなか抜						
	り返る。	けずに苦戦するおじいさんたちの様子を振り返るこ						
		とで、本時の場面(やっとかぶが抜けること)を意						
		識させるようにする。						
	(0) 大吐の坦子(佐の坦子) ケ	.,						
	(2) 本時の場面(第8場面~第9場面)を	○ 前時と同様に、音読発表会に向けて、おじいさん						
	音読する。	たちの様子を想像し、音読に生かしていくという意						
		図を明確に持たせる。						
3 0	2 おじいさんたちの様子を想像し、思ったこ							
	とを伝え合う。							
	(1) 本時の学習のめあてをつかみ、一人一	○ 「ねずみは、力持ちなのか」、「どうしてねずみが						
	人の存在価値について考える。	来たことで抜けたのか」を考えさせることにより、						
	-	たとえ微力なねずみでも、ねずみの力は必要で、一						
	どうしてねずみが来たら、かぶが抜けたの	人一人の力を合わせて全力でがんばったからこそ、						
	かな。	かぶを抜くことができたことを捉えさせたい。						
	・ねずみの力は、小さいけど、小さな力でも必要だと思う。							
	・ねずみも、なかま。みんなでやるから、かぶが抜けたのだ	本時の読みの視点を明らかにした課題を設定						
	と思う。	しています						
	・みんなが力を出さないと、かぶは抜けないと思う。	この学習が第8時の言語活動にどのように						
	・ねずみは、力持ちではないけれど、みんなで一生懸命がん	結びつくのかを明らかにしています。						
	ばったから抜けたのだと思う。							
	(2) かぶが抜けるまでの様子を登場人物に	○ 場面の様子を豊かに想像し、登場人物の気持ちに						
	なりきって、動作化する。	寄り添うことができるように、全員に動作化させ、						
		かぶが抜けた時の気持ちを表現させる。 また, この						
		活動は、次時の音読発表会や8/8で行う「おはな						
		しかい」の読み聞かせの工夫に生かされる。						
	(3) かぶが抜けた時の登場人物の気持ちを	○ 自分の考えがうまく表現できない子には、登場人						
	吹き出しに書く。	物の表情や仕草に着目させ、嬉しい時や喜んでいる						
		時の気持ちを短い言葉で表現するように支援する。						
	おじいさんたちは、どんなお話をしている	ア MVXMN りと述い日来で公允がある。						
	のかな。	かぶが抜けた時の登場人物(おじいさん・おばあ						
	・ やった!やっとぬけた! 具体的な支援	さん・まご・いぬ・ねこ・ねずみ) の行動や気持ち						
	・ かぶがぬけてよかった! 策を持って授業	を想像することができたか。(音読練習・発表)						
	みんなの力でかぶが抜けた!	ENGRY DEEN CETEN (TRUMPE)032)						
	みんな力を合わせてくれてありがとう!							
1 0								
	3 学習のまとめをする。							
	(1) 本時の場面(第8場面~第9場面)を	○ 学習を振り返って、かぶが抜けるまでと抜けた時						
	音読する。	の登場人物の行動や気持ちが伝わるように、グルー						
	Ħ Nr 7 . ∽0	プになって音読の工夫をさせることにより、次時の						
	(2) 自分や友だちのがんばったことを伝え	音読発表会に生かすようにする。						
		本時と次時とのつながりを明らかに						
	合う。	しています。						
		○ 次時では、今まで学習してきたことを生かして、						
	4 次時の学習の見通しを持つ。	グループで練習し、音読発表会を開くことを伝える。						
1		//* / (

